



「声」の欄・投稿規定

- ★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。
- ★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。
- ★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。
- ★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-3984-1003）とE-mail（アドレス：hs1979@intage.com）にても受け付けております。
- ★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

皮膚科診療とAI

Deep Learning 技術による人工知能(AI)の進化のスピードが当初の予測を遥かに超えているのだそうで、2045年にはAIが人間の知能を超えるという映画『ターミネーター』のような説もあるのだとか。

さて、医療業界では消化器内科がいち早く内視鏡検査にAIを導入して、早期胃癌の診断に役立てているという。ならば皮膚科領域ではどうなのだろうか。

画像のコンピュータ解析による皮膚癌診断の試みは、以前からときおり学会で報告されてきたが、いまだ実用化には至っていない。現在は信州大学がカシオ計算機と組んでAIによる皮膚癌の診断を研究中と聞くが、臨床に応用されるのはいつごろになるのだろうか？

石川 博康
(八戸市・湊高台皮膚科)

【コメント】

2019年度から2023年度まで信州大学とカシオ計算機は「イメージングデータを用いた皮膚がん診断ソリューション開発」というタイトルの共同研究（学術研究）を行っており、カシオ計算機はその成果を基にしたAI（人工知能）による皮膚癌診断支援システムの開発を進めています。

AIは世の中のさまざまなところで実用化されていますが、論文報告レベルではなく医療機器として診察室で使用するためには、製造と販売を担当する企業がさまざまな規制をクリアしつつ、AIを用いたプログラム医療機器の保険適用申請も含め、積極的に開発を進めていく必要があります。

したがって、研究者の立場から市場導入予定時期について言及することはできないのですが、日本の中の本共同研究協力施設から提供していただいた患者さんのデータを用いて作成したAIですので、私たちが早期の医療機器承認を願っているところです。

古賀 弘志
(信州大学医学部皮膚科学教室講師)